

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人イエス団
施設名	幼保連携型認定こども園 一麦保育園
報告者（役職）	梅村 新（園長）
住所・連絡先	兵庫県西宮市高木東町 30-3
	☎ 0798-67-2775
	E-mail itibakuh@chive.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「麦のようにまっすぐ伸びよう！！ 一麦っ子！！ 広がれ一麦の輪！！」

○主な助成備品

木製遊具ミニログ パパイヤハウス、ミニ椅子・テーブルセット

1. 保育計画策定の目的

保育園としてスタートした頃から、園の周りには農地や豊かな自然がありました。園の子どもたちは周辺の自然に親しみながら、いのちの尊さ、自然を愛する心、豊かな情操を育んできました。しかし近年、農地は住宅やマンションへと変わりつつあります。そうした中、園舎の全面改築を行うにあたり、園庭に樹木や花を植え、狭いながらも自然を感じながら遊ぶことができる園庭へと改装しました。この園庭で過ごす子どもたちの遊びの可能性が広がり、好奇心や探究心が育ち、創造性や感受性が豊かになり、植物や生き物を大切にすることが育つことを願いました。

伝統の上に新しい要素を織り込みながら、地域に根ざし、地域の皆様に愛され、地域の子どもたちを育てる園として、そして新しい取り組みと情報発信ができる園として歩んでいきたいと考え、今回の事業をもって、園庭の充実を図り、歩みをすすめる大切な足がかりとしたいと考えました。

導入したのは、木製遊具ミニログ パパイヤハウス、ミニ椅子・テーブルセット。

子どもたちがベンチに座ってテーブルを囲み、おしゃべりをしながら楽しい時間を過ごし、コミュニケーションを広げられるように設置することにしました。

小さな木製の小屋は、ウッドデッキ上に遊具として置くことで、年齢の小さい子どもたちが集まってゆっくり遊びを楽しむことができるようになることを考えました。

活動量の多い3～5歳の子どもたちは、築山を上り下りしたり、三輪車に乗って遊んだりしていますが、ベンチやウッドデッキ上の小さな木の家が休息の場ともなり、年齢を問わず子どもたち同士のコミュニケーションが広がり、クラスや年齢の異なるお友だち同士

が交流を深めることにつながってほしいと期待しました。遊びとコミュニケーションの広がりにより、子どもたちの感性や情操がより豊かに育まれるようにと願いました。

2. 具体的な実施内容

園庭を子どもたちがより豊かに楽しく遊べる場となるように次のような環境作りをしていきたいと考えました。

- ・子ども用の小さなベンチ、テーブルの設置
子どもたちが集まり、子どもたちの遊び、コミュニケーションが上げられるように。
- ・小さな木製小屋(遊具)の設置
乳児の遊びの場、幼児の遊びとコミュニケーションの場となるように。



3. その成果と評価

1932年創立の歴史ある園ですが、2019年4月、園舎、園庭の改築・改修とともに幼保連携型認定こども園として新たな歩みをスタートさせました。

園庭には多くの樹木と築山、築山を抜けるトンネルなどを設置しましたが、大型遊具などは置かず、子どもたちの遊びの創造を期待しました。そうした中、やはり子どもたちが少し腰をかけた、集まって話しをする場所があった方がよいのでは、という声が上がった。一麦の子どもたちの育ちを促し、お友達同士の輪の広がりを期待して、木製パパイアハウスと椅子・テーブルセットを設置することにしました。導入にあたっては、園庭にマッチする落ち着いた色合いの木製のものにしました。

設置後、このパパイアハウスとテーブルセットには、子どもたちが集まり、話をしたり遊びを展開したりする様子が見られるようになりました。

まずパパイアハウスでは、数人の子どもたちが中で寝っ転がってひそひそ話をする姿、自分の家のようにリラックスして過ごす姿、ハウスの中からと外からのやりとりを楽しむ姿、ハウス内からの園庭の景色をゆったり眺める姿など、本当に子どもによって多種多様な過ごし方があることを感じさせられました。1, 2歳までの子どもたちにとっては、ハウスも大きく見え、その中で遊んだりお友達と話したりすることは特別な楽しみがあるよう

に見受けられます。まだ中から外を眺めるのが難しい子どもたちにとっては、大きな部屋なのだと思います。

やがて、パイヤハウスには、レースが取り付けられ、見た目にもちょっとおしゃれな感じになり、特別なスペースに感じている子どももいるように感じます。また、虫や植物の小さな図鑑も並べられ、園庭でいろいろな発見をした子どもたちが、ハウスに入って来てすぐに本を見て確認する姿も見られました。そうした探求する姿が、学校の教室をまねたシチュエーションに発展していたこともあります。ハウスの近くに集まった子どもたちの中で先生役、生徒役になって、授業のように楽しんでいる様子も見られ、成長していく子どもたちの学校や将来への憧れも感じることができます。



ミニ椅子・テーブルセットは、当初ウッドデッキ上に置いていましたが、まもなく砂場の横に移動しました。ここでは、子どもたちが集まって話しをするだけでなく、砂場から容器に入った砂を持ちよって、かき混ぜたり水を入れたり、いろいろなものをついたり、創造豊かにいろいろな場面を想定した遊びが展開されています。時に保育教諭もともに交わりの中に入って、そのコミュニケーションを楽しんでいます。このテーブル・椅子は少し高さもあるので、3歳以上の幼児たちが中心となりますが、それでも2歳までの小さい子どもたちの中には、この椅子に座って少し年上のお兄さんやお姉さんの気分を感じている子どもたちもいるようです。



設置にあたり、目標としていた、遊び、コミュニケーションの場、そしてその広がりについては、私たちの創造を超える役割を果たしていると感じています。改めて子どもたちの持つ可能性の大きさ、創造と想像の豊かさを感じているとともに、その成長の様子が麦のようにまっすぐ伸びていることを実感しています。今回設置した遊具が、その遊具そのものやその場所でのことだけでなく、ここが起点となって、他の場所、他の時間の遊びやコミュニケーションにも広がりを持たせてくれているとも感じます。

また、今回の遊具設置後、2021年度には新たに木製遊具を1つ新規購入し設置しました。パパイヤハウスとミニ椅子・テーブルセットが、次の展開へのきっかけとなっていることも付け加えさせていただきます。

4. 今後の課題と展望

一麦保育園に新たに与えられた子どもたちの大切な場所、園庭の一角ではありますが、卒園していく子どもたちの思い出の場所となり、そこで育んだ小さな思いが将来へ、子どもたちそれぞれの展望へ、と広がっていくことを期待します。

毎年毎年成長していく子どもたち、同じ場所でも遊び方、感じ方は変わっていきます。また、毎年新たに入園してくる子どもたちがいます。子どもたちが毎年毎年新しい発見と新しい楽しみと新しい広がりを見せてくれる場となっていくことを願っています。

子どもたちの大切な場所をしっかりと維持できるよう、メンテナンスをはじめ安全面には日頃から十分気をつけていくよう努めていきます。

幼保連携型認定こども園への移行にあわせて、園舎の改築、園庭の改装を行いました。園庭の環境整備はまだ途上です。子どもたちにとって、一麦保育園が楽しく過ごせる場所であるよう環境を整え、保育の充実につとめていきたいと考えています。

以上